

令和4年度空知農業改良普及センター外部評価報告書

空知農業改良普及センターが取り組んでいる普及指導活動について、効率的、効果的に展開し今後の普及活動に役立てるため、地域で活躍する農業者や関係者、消費者及び有識者の皆様と意見交換を通じて今後の普及活動に活かすことを目的に、普及事業に関する外部評価を実施しましたので報告します。

I 日時・場所

日時：令和5年3月2日（木）10：00～12：00

場所：空知総合振興局4階講堂

II 懇談会名

令和4年度空知管内地域農業づくり懇談会

III 参集範囲

地域における安全・安心な農産物生産や農村地域の多面的な機能等の理解とともに、農業改良普及事業に対する理解と協力を得るため、次の各分野から参集する。

- (1) 先進的な農業者
- (2) 若手・女性農業者
- (3) 農業関係団体
- (4) 消費者
- (5) 学識経験者
- (6) 報道機関
- (7) 民間企業

IV 報告内容

1 北海道農業改良普及事業の概要について

2 普及活動事例報告

- (1) 本 所：輪作の推進と花き生産力の維持による持続可能な農業経営
～直播水稻の安全生産技術の実戦に向けた普及活動～
- (2) 南東部支所：若手女性農業者の育成～女性が輝くと地域も輝く～
- (3) 南西部支所：振興作物の生産拡大～トマトの生産性向上を目指す！～
- (4) 中空知支所：GAPへの取組推進～持続可能な農業経営を目指して～
- (5) 北空知支所：新たな水田複合経営の確立
具体的推進事項：農作物の安定生産と省力化

V 意見交換、ご感想等

1 北海道農業改良普及事業の概要・普及センターの活動全般についてのご意見・ご感想等

- 日頃から総合振興局、普及センターからご指導・ご支援いただき、ありがとうございます。「普及活動計画」に記載されているとおり、多岐に渡る課題へ精力的できめ細かな対応が大きな信頼に繋がっているものと感じております。また当方の活動に対しても、講師対応や、検討委員会への主任普及指導員の参加と助言をはじめ、多くの面でご支援を頂き、改めて感謝しています。
- 空知地域の農業に関わる課題について、色々取組を知ることができました。普及センターの日頃の努力が伝わってくると感じました。
- 流通など売る側の方は日本全体の市場の動向や国際的な視点で動いているので、国際的・全国的な視点をもう少し入れて、地域課題と関連性を考えていただけたら良いと感じました。

- 産学連携の重要性について。大学では研究、ノウハウ、人材もありますので、大学との連携、産業界との連携を今後とも視野に入れて取り組んでいただきたいと思います。
- 農機具がものすごく高く、借入れを背負いながら経営をしていることが大変だと思います。そこで、政策に左右されない形で設備投資をできるなど、金融機関のアドバイスを受けられるような体制ができれば良いと思います。
- 世界的な情勢が変動する中で、経営費を削減してもこれだけの食糧の確保ができるという、具体的に数値化したものをしっかり見せることが必要です。世界的な流れとして食糧問題、グローバル化が大きな問題となっています。自分たちの国のものは自分たちで作る。このような意識が大きくなっていますので、これからのご活躍を願いたいと思いました。
- 北海道の普及センターはすごく現場重視で農家に寄り添った活動をされていることを今日あらためて実感しました。半世紀で普及センターが6分の1減ってしまいましたが、普及センターの存在は地域の活性化に結びついているのは間違いないので、体制が厳しくなっても、苦しい中でこそ維持していただければと強く思いました。
- 是非、良い意味でマスコミを発信の場として利用していただければと思っています。普及センターの所長が替わると、情報をくれる人とそうでない人と分かれる。熱心なところには色々聞きたくなりますし、大きく書きたくなると記者も言うておりますので、普及センターから情報発信をしていただければと思います。
- 農業と農村政策は両輪でやっていくべきということを言っていますけれども、生産額の上昇だとか、所得向上ということだけではなくて、地域を盛り上げることを意識した活動をこれからも継続してもらえればと思っています。
- 単体で何かを行うのではなく、行政、市場、支援機関などが連携・実施することは足し算でなく、かけ算で農業者の支援や生活改善にも結びつくと思います。今日のような情報交換の機会、連携・情報を密にすることで、地域の発展に寄与することができるのではないかと思います。
- 食料安全保障の気運が高まる中、この潮流をどう捉え、産地としてどう対処すべきなのかも考える必要がある中で、普及センターには技術面はもとより、将来の農業・農村のあり方に対するご指導を引き続き期待します。
- いずれも大変意義深い活動であると感じました。また、日頃このような具体的な事例に触れる機会が乏しいことから、この度は本当に良い機会をいただいたと感じています。職員全員が他の事例なども含め、教授いただける機会や意見交換できる機会があると大変ありがたいです。

2 普及活動事例

(1) 本所：輪作の推進と花き生産力の維持による持続可能な農業経営

～直播水稻の安定生産技術の実戦に向けた普及活動～

- 土壌条件を教えてください。また、粘土の所でも直播をやっているのですか。
(回答) 栗沢の土壌条件は泥炭土の上に粘土が客土で入っています。粘土地帯では土を細かくするのが大事です。しかしクラストができて出芽に影響を与えるため、細かくしすぎてもだめです。粘土が強いところは、乾田を諦めて湛水直播をする生産者もいました。
- 直播の技術は年々向上されていると思います。食味はどうでしょうか。
(回答) 「えみまる」「さんさんまる」といった直播の良食味品種も出ています。施肥管理は結構難しい部分もあって、たんぱくが高くなってしまったりすることもあるので、気をつけていかなければなりません。
- 地域にあったマニュアル作りとても素晴らしいと思いました。
- しっかり穫れるということを実証して見せてくれました。収量が増加したと考えてよいでしょうか。
(回答) 農業者自身が、収量が穫れることを実際に栽培して体験しました。

(2) 南東部支所：若手女性農業者の育成～女性が輝くと地域も輝く～

- 南東部は栗山と由仁と一緒に活動していることから、会員数が減ってきたのであれば栗山とも連携しては如何でしょうか。

(回答) 農協が合併してから由仁と栗山と一緒に活動する場面が増えてきており、WEAVEも町の枠組みを取り払って、近隣の方とも連携したらどうかという意見も会員の中からも出てきています。今後検討していきたいです。

- 若手女性農業者の育成で、子ども連れでも活動しやすい環境でやっていることや、つながりがあって良いと思いました。
- 設立当初何をしてもよいか分からない中、先導してくれたのが普及センターで、試験的に野菜を作ったり、できることは何でもやってみようという後押しをされました。子どもと普及センターに行くと、会議室の隅で子どもたちが遊んで、そういう場を作ってくれたのがとてもありがたかった。メディアとの橋渡しもしてくれて、新聞に掲載されたり、テレビ出演も何度もしました。色々な賞も受賞でき、評価いただいたのもメンバーの自信になり、活動の意欲も刺激されました。もうすぐ10年になるろうとしていますが、これからも身近で細やかなサポートをお願いします。
- 道の子育ての担当部局と連携、情報交換、共有をする体制づくりをしていただければと思います。
- 40歳定年制となっていますが、会員の年齢構成がどうなっているのか。対象をどのように広げていくのか。活動を密にするほど負担が増えることが逆に働いている苦勞もあると思うのですが、それも含めて教えていただきたいと思います。

(回答) 31歳から1歳刻みで40歳になる方までいます。結婚後も農業経営をしない方もいて、対象が狭まっています。会員の中から40歳定年は若すぎるのではないかという意見もあります。広報に載せるなど、広く会員は募集していますが、知らないところに入ってくるのは心理的にもハードルが高く、負担が少ない形での参加の方法が無いかを模索しています。

- 設立からずっと普及センターが寄り添っているのはなかなかできることではないです。地域活性化を女性農業者の視点に立ってどういうやり方が良いのか模索して改善している姿が素晴らしいと思いました。
- 店舗の空きスペースを地域の業者等に無料で提供させていただいています。そこに加工品や商品を置いていただく取組を実施しています。とくに農産物が大人気で、例えばWEAVEと連携できれば、由仁の農産物を札幌の方に買っていただく非常に良い機会になると思います。

(3) 南西部支所：振興作物の生産拡大～トマトの生産性向上を目指す！～

- 消費者にも好評で収量もアップし、大成功と思います。継続してやっていると良いものになると思います。

- 品種の切り替えは、いっぺんにするのか、既存の品種を少しずつ替えていくのか教えてください。

(回答) 数年かけて切り替えるのが一般的ですが、このトマトは高温に強い新品種で、令和3年が極端な高温年ということもあり、一刻も早く切り替えなければ市場からの信用も失いそうということで、予定より早く全面的に切り替えました。

- 新品種の導入が大きな成果に繋がっています。新品種を入れる前の令和2年が1,688t、令和4年は1,685tとなっていますが、普及センターが考案した施肥の方法をしっかり行っていけば1,685tを超えると判断して良いでしょうか。

(回答) 令和4年は全て品種が切り替わった収量となっています。種苗会社から灌水量、肥料を慣行品種より多くした方が良いと情報提供を受けましたが、生産者は全体的に栽培方法を大きく変えるのは怖いということで、灌水量を慣行品種同様にされた方が多かったです。役員のところでは大きな差が付いていたのは思い切って灌水量を増やした結果で、種苗会社からの情報が実際に証明もされていますので、講習会や巡回指導等で説明し、生産者全体で確立されていけば今後の収量増加も期待できると考えています。

(4) 中空知支所：GAPへの取組推進～持続可能な農業経営を目指して～

- オリンピックなどで私もGAPを少しかじったが、なかなか先の見えない情勢の中でGAPに取り組む人が今後は増えていくのか。GAPの取組が最近はたち消えたような雰囲気なので、是非とも頑張っていたきたいと思います。

(回答) GAPをすることで確実に農業経営は良くなると思いますので、コロナ禍でもGAPの取組は評価されています。

- どれだけ気をつけても事故が発生することもあり、人手が足りないことによる限界もある。認証取得しなくても、学ぶだけでも手伝いの人の事故の回避に繋がると思うので、取得・勉強・広めるのは良いことだと思います。
- なかなか見えにくいメリットと思いますが、GAPの認証についてはこれから先少しずつ大きく広がってほしいと思いました。
- 活動の結果だけでなく、過程を重視してもらえればと思います。「どうしてGAPが必要なのかということを知ってもらおう」方が、GAPの数を増やすことよりも重要かもしれないと考えております。
- 活動年数が幅広く過去に遡って記載されていますが、具体的に今年の成果はどのようなところを捉えたらよろしいでしょうか。

(回答) 最終目標は認証取得ではないですが、GAPを取り入れて法人の農場をよくするためです。今は走り出したという段階です。

- GAPをする、行動することが非常に良いと思います。そこが普及センターの活動として重要な部分で、取組を始める一つのきっかけとして提案できる方法と思っていますので、引き続きご活躍を期待したいと思っています。

(5) 北空知支所：新たな水田複合経営の確立 具体的推進事項：農作物の安定生産と省力化

- 稲作の技術が高い印象を受けました。基盤整備後のサポートが素晴らしいと思いました。
- 道筋がはっきりと見えて、とても分かりやすく良かったです。植えた後の水管理は難しいのですか。移植から活着するまで水管理が非常に難しく経験年数が必要なのか、自動給水栓などの技術的な連携でクリアできるのでしょうか。

(回答) 自動給水栓の活用ですが、初期の水管理に関しては対応しきれないところがあって、特に直播と一緒にかなり浅水管理をしないと初期育成が確保できない技術です。直播に近い管理が必要だということがありますので、浅水管理と自動給水栓との技術的な連携が少し難しいということになります。育成中期以降は既存の移植と同じ水管理ですので、自動給水栓が活用できると思っています。